

東京 肝臓のひろば

令和元年(2019年)10月号 **第232号**

特定非営利活動法人 **東京肝臓友の会**

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-14-26-1001
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>



巖島神社 一広島県・宮島一 絵・山高 定三

第8回 世界・日本肝炎デーフォーラム トークイベント

日本の肝炎対策を、肝がん死亡率 世界ワースト1位のモンゴルで活かす 共同プロジェクト

～肝炎医療コーディネーター養成から検査、
治療促進を目指して～



佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター特任教授

江口 有一郎 先生

聞き手：米澤 敦子 (日肝協 代表幹事)



【日時】2019年7月27日(土) 14時20分～15時45分
【場所】星陵会館

司会(野田晃弘) 皆さん、こんにちは。これより第2部のトークショーに入ります。私は常任幹事の野田でございます。よろしくお願ひいたします。(拍手)

日肝協には代表幹事が3人おります。昨年、2名の若返りを図りました。壇上にいるのはその若手の1人、ご存じの米澤代表幹事です。紅一点で日夜活動してくれて、NPO法人東京肝臓友の会事務局長兼日肝協代表幹事を務めております。

2部は、例年ですと講演会ですが、今回は、佐賀大学医学部附属病院肝疾患センター特任教授の江口有一郎先生と米澤代表幹事によるトークショーです。昨年12月、江口先生がモンゴル国の保健省にコーディネーター養成のために招かれ、患者代表として米澤も一緒に行って、お話をしてきました。そのスライドを交えてのトークで、退屈はいたしません。ほかの国の勉強もしていただけたらと思います。

では江口先生、よろしくお願ひいたします。(拍手)

1. 自己紹介

米澤敦子 今、野田からも説明がありましたように、今日はちよつと趣向を変えて、江口先生と私とで、モンゴルの話を中心にしたトークセッションを進めてまいりたいと思います。

江口先生に長いタイトルをつけていただきました。「日本の肝炎対策を、肝がん死亡率世界ワースト1位のモンゴルで活かす共同プロジェクト」(肝炎医療コーディネーター養成から検査、治療促進を目指して)」ということですが、江口先生どうぞよろしくお願ひいたします。

(拍手)
江口有一郎 はい。よろしくお願ひいたします。

米澤 お話に入る前に、今更という感じもいたしますが、簡単に先生のご紹介をさせていただきます。先生が作られた自己紹介

介文を読ませていただきます
(図1)。

昭和44(1969)年、福岡県久留米市生まれ。佐賀ではないんですね。

江口 はい。福岡県久留米市生まれです。

米澤 今年11月で50歳。まだまだお若いですね。佐賀にございます江口病院の長男としてお生まれになっております。

そして「私立中学受験のため国立小学校を自主退学」——こんなこと、初めて聞きました。

江口 「小中学一貫校の小学校で、当時の規則だったのでしょいか、私立中学を受けちゃダメ」と言われて、飛び出しました。

米澤 それで長崎の青雲学園中学・高校を経て、佐賀医大へ。お父様と同じ消化器内科、肝疾患を専攻なさって佐賀医大の内科に入局なさいました。

それから、先ほど持田 智先生からもお話がありましたように埼玉医大に国内留学に行かれ

て、約5年間仕事をされた。「目指す医師像がここで決まった」ということですが、やはり持田先生の影響が非常に強かったのでしょうか。

江口 はい。持田先生が指導医で、実験の方法からネズミの持ち方まで全部教わりました。もう亡くなりましたが、藤原研司教授の回診にも『白い巨塔』のように、ついて回りました。「これが男の生きざまだ」とか、患

者さんに、ものすごい良い言葉を掛けられるんですね。非常にインパクトを受けました。その藤原教授と持田先生にご指導をいただいて「ああ、こういう医師になりたいな」と思いました。

米澤 学位のテーマが「非アルコール性脂肪肝炎と臓器連関」。埼玉医大から佐賀大に戻られ、「ひと」を学びたく総合診療部へ自主的に異動された。これは珍しいことなのですか？

江口 もともとは消化器専門ですが、NASHについては当時、一般に認知度が低かったものですから、内科で、自分がまず生活習慣病を勉強するべきだなと思いました。いわゆる総合内科を勉強したいと思つて総合診療部に突然移りまして、せっせと外来を勉強しました。

米澤 なるほど。その頃からアクティブな先生の

姿がうかがえますね。

江口 総合診療部では、医療の質を上げるための医療マネジメントもしています。今やっている疾病の啓発も、総合診療部のあり方や、そこでの医療マネジメント等から勉強することができたと思っています。

米澤 平成24(2012)年から、佐賀大学の佐賀県寄付講座「肝疾患医療支援学」教授ですね。

江口 はい。佐賀県は肝がんが非常に多いので、その対策チームを作ろうということで佐賀県が地域医療再生基金から大学に講座を開設してくださいまして。私は佐賀がフィールドでもありますから、ここに籍をいただきました。

米澤 平成28(2016)年から今の職に就かれております。佐賀大学病院肝疾患センター長、特任教授ということですから、よろしくお願ひいたします。

江口 はい、よろしくお願ひいたします。

自己紹介



- ▶昭和44年 福岡県久留米市生まれ 今年11月で50歳
- ▶両親、医系の家系の長男(兄弟は歳が離れた妹がふたり)
- ▶私立中学受験のために国立小学校自主退学
- ▶第一志望に落ちて、長崎の青雲中学・高校を経て、佐賀医大へ
- ▶父と同じ、消化器内科、肝疾患を専攻
- ▶佐賀医大内科学入局
- ▶埼玉医大(藤原研司 教授、持田 智 教授に師事)へ。「目指す医師像」が決まる。
- ▶学位テーマは、非アルコール性脂肪肝炎と臓器連関
- ▶佐賀大帰学後、「ひと」を学びたく、総合診療部へ自主的に異動
- ▶平成24年~佐賀大学、佐賀県寄付講座「肝疾患医療支援学」教授
- ▶平成28年~現職、佐賀大学病院、肝疾患センター 特任教授・センター長

図1

2. モンゴルからの誘い (無関心期→関心期)

(1) きっかけ

米澤 それでは、モンゴルの話になります。

江口 はい。まず、きっかけから少しずつお話ししたいと思います。

メールを見返しますと、モングルのやり取りが今までに83通ありまして、これがその第1報、佐賀ロータリークラブの香

月武(かつき・たけし)先生という口腔外科のお医者さんからです。口唇裂という手術のスペシャリストで、モンゴルでも口唇裂が多いらしく、先生は数十年前から無償で現地の医師達に医療技術を指導しておられ、年数回、自分の診た患者さんを回診するというのを長年しておられます。そのときにモンゴルで肝炎が非常に多いという話題が出てきたものですから、「佐賀にもそういう肝炎撲滅の啓発

をやっている男がいるぞ」ということで、香月教授から私に連絡がありました。

ムンクジャガール・アユールザナという女医さんがキーパーソンになります。香月教授が「佐賀に肝炎対策のスペシャリストがいるので紹介しようか」とムンクジャガール先生に連絡され、私のほうにも香月教授から「手伝いをしてくれないか」というメールをいただきました。それが最初のやりとりです。

さて、モンゴルをご紹介したいと思います(図2)。日本から飛行機で5時間ぐらいです。東から西まで2,400キロあります。稚内から那覇までぐらゐの距離ですが、めちゃくちゃ広くて、面積が日本の4倍。しかし人口は300万人ぐらいしかいません。21の県があって、それぞれ北海道ぐらいの面積があります。西のほうにカザフスタンがあつて、東は中国に接していて、北側にはロシアがある。そ

ういう国です。

人口が32万人で首都はウランバートル。お相撲さんがたくさんいます。モンゴル人がメインで、一部カザフ人がいる。言葉はモンゴル語で、私たちには全く読めません。

(2) 行動変容5つのフェーズ

よく肝臓病の疾病啓発の時のポイントを医療者にお話をするときにさせていたたくのですが、人間は、行動変容するとき

れています(図3)。皆さんの

はじめの状態は「無関心」です。この会場の中に、「肝臓病と闘いたい」と思つて生まれてきた人は1人もいらっしゃらないと思います。基本的には皆さんは最初は無関心期にあります。①無関心期から②「ちよつと気になる」程度の関心期になつて、③「治療しなきゃ」と準備期に変わつて、④病院を訪れて治療をする実行期になり、⑤定期的な検査をしていく維持期となる。この5つのフェーズがあり



図2

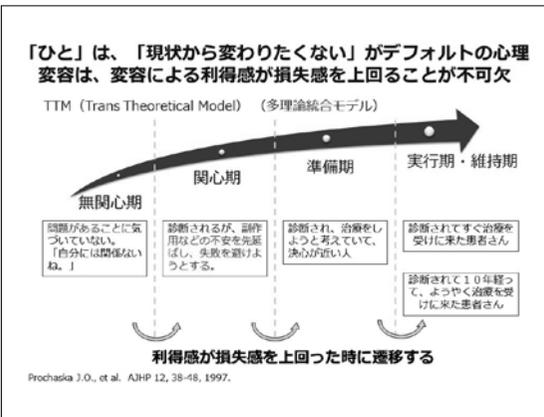


図3

ます。今日は、私の心理状況を、こうした流れに合わせながらご紹介していきます。

このメールのときは、私も無関心期でした。佐賀の肝炎対策に手いっぱい、モンゴルに肝

がんが非常に多くて国家的な問題であることに全く気づいてない。「俺は関係ないね」と最初は思っておりまして。ムンクジャ

ガール先生のお話を聞いて、気にはなりますけれども、佐賀県の肝炎対策がおろそかになるほうが不安でした。どうしようかな、と非常に迷っていたわけ

です。
米澤 先生、これはいつ頃の話ですか？

江口 2016年のやりとりです。ムンクジャガール先生と、最初は7月7日にスカイプで話を

をしました。この先生はイギリスへの留学歴があつて英語が非常に流暢です。私と年が一緒に

1969年生まれで、モンゴルに1校だけある国立大学の医学部を出られた、非常に優秀な女

医さんです。肝炎対策のほかに、公衆衛生の問題をメインに取り組んでおられます。スカイプでお話をして、モンゴルの状況を知ったわけ

(3) 高い肝炎罹患率

ある医学雑誌から、モンゴルの肝炎の状況をご紹介します。(Wong et al. (2018) "The changing epidemiology of liver diseases in the Asia-Pacific region" Gastroenterology & Hepatology)

米澤 HBs 抗原の陽性率が10%を超えている！ (図4)

江口 この黄色いラインです(赤の楕円)。モンゴルは飛び抜けた状況で、国民の十数%にB型肝炎のウイルスが感染して

います。
米澤 今度はHCV抗体の陽性率がダントツの10%超え。すごくないですか! (図5)

江口 世界中で、モンゴルだけ飛び出て非常に多い。県民の30%がHCV陽性という県もあ

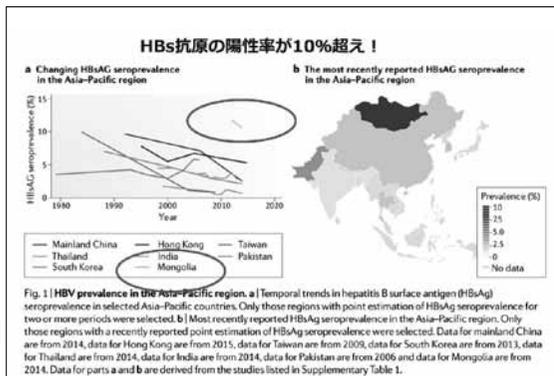


図4

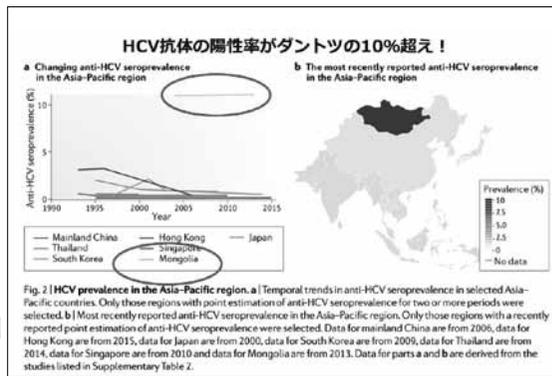


図5

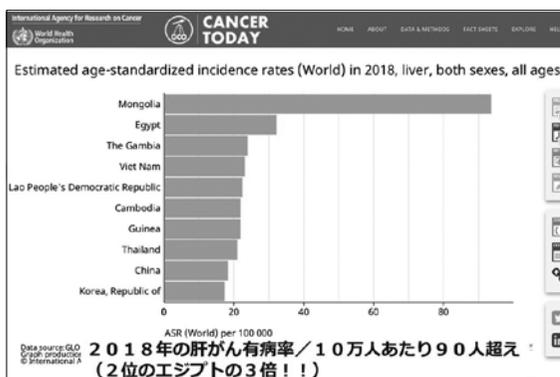


図6

るので。
その状況で、国民の皆さんが長年無関心であると、どうなるでしょうか。これはWHOが出している、肝がんの有病率です(図6)。モンゴルがぶつちぎり1位で、2位のエジプトの約3倍です。非常に大きな問題で、世界をあげてモンゴルの肝炎対策を何とかしたいということで、WHOも入って、日本からは金沢大学の金子 周一先生

もWHOに医師を派遣して、モンゴルの肝炎対策を支援されているともお聞きしております。

こうしたデータを見ましたら、私も「関心期」に動きまして、「何とかお手伝いをしなきゃならないな」となりました。しかし海外支援は初めてで、英語もそんなに得意ではありません。どうしようかと困ったときには、肝炎対策の大先輩にメールをします。溝上 雅史先生です。親分となる溝上先生は、先ほど申し上げた、地域医療再生基金を使って肝炎対策をしようと当時の佐賀県知事に直談判をしてくださった方です。佐賀のお生まれで、ご実家が私の住む町の隣町ということで、非常に近しく可愛がっていただいております。

そこで「モンゴルにこういう話があります。どう思いますか?」と溝上先生に話しましたら、「やってみなさい」とおっしゃってくださいましたから、

「これはやるしかないな」と思いました。

米澤 これまでも溝上先生は、モンゴルとも関係が深かったのですね。

江口 はい。C型肝炎ウイルスを研究されているので度も行かれて、モンゴルでは神様扱いです。「お前はプロフェッサー・ミゾカミと知り合いなのか!」と、ものすごく喜ばれました。

米澤 はい。私も以前、世界肝炎アライアンスという、世界中の患者団体が集まるサミットに行ったとき、溝上先生に同行していただいたところ、「プロフェッサー・ミゾカミ!」と、患者からも医者からもものすごい勢いで声が掛かりました。日本とは全然違う状況で、「溝上先生はこんなに偉かったんだ」と思いました(笑い)。

江口 そうですね。握手の行列ですね。

3. まずは派遣してみた (関心期↓準備期)

(1) 調査派遣

江口 そういうわけで、2017年8月に、医局員である講師の岩根 紳治と高橋 宏和という同級生2人と、大学院生の藤岳 夕歌さんの3名を派遣しました。私は用事がありましたので、行けなかったのです。

そして送られてきた動画がこちらです(図7..動画の一部)。

「先生、こんな感じですか」という状況でした。これが村で、米澤さんも行った病院があります。

次に送られてきた写真です(図8)。

米澤 これはちよつとした観光ですね(笑い)。

江口 高橋はハーバード帰りなので英語はペラペラです。英語が全くダメな岩根と、大学院生の藤岳さんです。岩根は外国が大嫌いだっただのですが、モンゴルを非常に気に入っていて、オオカミの毛皮を着ております。彼は6回モンゴルに行つて、とうとうモンゴル語が読めるまでになりました。



図7

2017年10月



好奇心旺盛の藤岳大学院生 (英語勉強中) 海外大嫌いの岩根講師 (英語ダメ) ハーバード帰りの高橋講師 (英語ペラペラ)

図8

(2) ムンクジャガールの来訪

2018(平成30)年4月になって、「佐賀大学に挨拶に行きたい」とムンクジャガール先生が突然来られました。「とにかく江口を寄越してくれ」という

ビャンバーさんといまして、シスメックスという医療機器メーカーの、モンゴルのトップです。東京工業大学の大学院に、文科省の国費留学生で来られていますので、日本語も英語もペ

直談判です。まだ行っていないので、「ぜひモンゴルに江口を派遣してほしい」と来られたわけです。

そのときに佐賀大学の病院長室で撮った写真です(図9)。院長の山下秀一先生とムンクジャガール先生で、香月教授、私、岩根と高橋。あとはブルガン・バーサン

ラペラのモンゴルの方です。ムンクジャガール先生の来訪もあって、「これはもうやるしかないな」ということで、実行期に移るわけです。



図9

4. モンゴル初訪問 (準備期→実行期①)

(1) ついにモンゴルへ
江口 パスポートのお話を少ししますと、出入国の判を押すとき、モンゴルは一番最後のページから逆に押していきます。何回行っても同じなので、それがお作法なのかと思います。今まで4回行っておまして、去年の9月30日に向こうに渡ったのが最初の記録です。直近が今年の5月になっています。

アイフォンのパノラマ機能で撮ってみました(図10)。とにかく広いんです。これで肝炎をどうやって探すのか……と、途方に暮れました。

実際にヒアリングに行つたところです。皆さん、ゲルというテントに住まわれています。1軒1軒回りました(図11)。遊牧民がバイクで馬を追いかけて、クラクシオンを鳴らして、子牛に「あつちに帰りなさい」と追い立てて



図10

いるわけです。

(2) 突撃ヒアリング

江口 ソして我々がしたこと
は、佐賀の肝炎対策でやったよ
うに、肝炎の検査を受けた人
に「なぜ受けたのですか」、受け
ていない人に「なぜ受けないの
ですか」と聞くことです。特
に「なぜ受けようと思ったので
すか」。全く症状がない肝炎で
すから、肝炎の検査が大事であ
るといふ情報が入っていか
ないと、わざわざ受けないはずで
す。同じ理由で、治療をした陽
性の人に「なぜ治療をしようと
思ったのですか」と聞きました
。それを知ること、行動を
起こすポイントが見つかるので
はないか。それが我々のメイ
ンの戦略ですので、モンゴルでも
同じようにヒアリングをしまし
た。

地元のロータリークラブの
方々に協力をいただいで、たく
さんの家を回る、突撃訪問です。
『突撃！隣の晩ごはん』みたい

な感じで、「よろしくお願
いします」と入っていきます。でも
非常に歓迎されました。これだ
け人口が少ないので、皆さん人
なつっこいですね。排他的では
なくて、「よく来た、よく来た」
と。

米澤 びっくりさ
れませんでしたか？

ですね。

江口 はい。真ん丸ですが10畳
ぐらいありまして、石炭で暖を
とっているの、非常に石炭臭
い。昔の蒸気機関車の中にある
ような臭いがします。手前に馬

江口 びっくりは
されません。「日本
から肝炎のヒアリ
ングで来ているん
だ」と言うと、「じ
ゃ、入りなさい」
ということ、中
に入りましたら、
こんな感じですよ
(図12)。ゲルは、
木で出来ているの
ですが、その周り
は全部、羊のフェ
ルトが回してあっ
て、十分暖かいで
す。
米澤 結構広いん



図11



図12

の乳で作った天然のバターがありまして、ゲルの一番奥にチンギス・ハンの像が飾ってあります。

それで、こちら。(図13)

米澤 これは何でしょう？ 薄汚れた青いプラスチック製のドラム缶。

江口 これは、向こうの歓待の

挨拶の1つなのです。馬乳酒というお酒が入っていて、アルコールが4%ぐらいです。各家庭で味が全然違います。

米澤 自家製なのですね。

江口 そうなんです。このドラム缶の中に不思議な菌がいるのではないかなと思うんです。カルピスを少し薄くしたような、少し炭酸感があります。シユワシユワしつつアルコールが4%ぐらい。「飲んでみるか?」と言われて、せっかくなので、飲みました。

動画で見せましょう。な

みなみと注がれまして、顔がかなり緊張しています。B型やC型肝炎は大丈夫ですが、A型やE型は大丈夫かな、というのもありました。しかし、「まあ、いいや。死ぬことはないだ

ろう」と思って、飲みました。米澤 これはちよつと断れない状況ですものね。(図14・江口先生が馬乳酒を飲む動画)

江口 ほっとした感じですね。「あ、大丈夫だ」と思って。米澤 表情がやわらいでいますね。

江口 はい。これを全部空けましたら、「また飲め」と。岩根はもうダメでした。僕は結局4杯飲みましたら、あるじが「日本人はたまに来るのだけれども、一口、味見をしたら、みんな置く。飲み干して、さらに4杯ま

この薄汚れたプラスチック製のドラム缶は??



図13



図14

で飲んだ男は初めてだ」と、すごく喜ばれました。そのあとの肝炎のヒアリングも非常にうまく行きました。

それで、実は僕は大学の部活が馬術部だったものですから、モンゴル馬にも乗せていただきました。(図15)

米澤 サマになっっていますね。

江口 胸を張って、姿勢がピタッとしているでしょう? 馬術には姿勢が要求されます。恥骨と坐骨の3点で乗るのですが、馬は、最初に鞍にぱつと座ったときの重心の置き方で、その人が自分よりも上なのか下なのかかわかるのです。馬が首を引いていますよね。従うという証拠です。普通に乗りこなしたので、モンゴル人も非常にびっく

(3) 診療所訪問
江口 さて、こちら。(図16)
米澤 これはどこでしょう？
江口 村にある国立の診療所です。お医者さんはほとんどが国家公務員です。モンゴルの街中

りしていました。
米澤 普通の馬とは違って、ちよっと小さいですね。
江口 はい。小柄ですが、非常に強い馬だと思います。



図15

を走る車はほとんどプリウスの中古です。カーナビも日本の中古ですから、現地では全然使えません。
そこでもヒアリングをしました。このおばあちゃんは、B型とD(デルタ)型肝炎の合併例です。昔の日本の病院はこんな感じだったのではないかなと思います(図17)。モンゴルのB型肝炎の15〜30%はD型を合併しています。D型は治療法がなかなかなくて、B型肝炎の核酸アナログが飲めないのです、インターフェロンでしか治療ができません。しかしモンゴルではインターフェロンが保険適用ではないので、Dを合併したB型は、30歳ぐらいで肝硬変や肝がんになってしまふという非常に深刻な状況です。
このおばあちゃんは、利尿剤で減ってはいる



図16



図17

のですが、初めて病院に来られた時には、すでに腹水がぱんぱんに溜まって、ようやく来られたそうです。「なぜそこまで放っておいたのですか」と聞いたら、「肝臓病は命に関わる病気だと思わなかった」ということで、やはり情報が全然届いていません。保健師さんはたくさんいらつしやるのですが、どちら

かという衛生状態や栄養の指導が多いということで、「肝臓病が怖い病気だとは知らなかった」ということでした。70歳ぐらいで、がんもあるとおっしゃっていました。しかし、がんは、あれだけ広い国で、ウランバートルのがんセンターでしか治療ができないという非常に大変な状況です。亡くなる方も多い。



図18



図19

米澤 地方では、治療がなかなか難しいということですね。
江口 はい。遊牧民ですから、ウランバートルまで馬で行ったり、プリウスで行ったりします。飛行機の路線がたくさんありますから大変なのです。
(4)リーフレット作成
江口 こうしたメッセージをたくさん聞きまして、モンゴルでもリーフレットを作ろうということになって、皆さんもご存知の「たたけ!肝炎ウイルス」のコピーを考えてくださったコピーライター松村修司さんに相談して作っていただいたのが、こちらです。(図18)

米澤 「放っておくのは自殺と同じ」。
江口 はい。こういう言い方がモンゴルの方には響くのではないかと、向こうでも検証してもらいました。「これなら行けるのではないか」ということで、モンゴル語に直してもらったのがこちらです(図19)。同じことが書いてあります。「見逃すな!肝炎ウイルス」とも書いてあります。
米澤 先生、日本語のほうは、実際に佐賀でもお使いになられているのですか?
江口 はい。「自殺」という言い方は、日本では使いませんが、しかしモンゴルでは、こういう

言い方が行動変容になりそうだとわかりました。ヒアリングは全部ビデオカメラに撮って、日本に持って帰って松村さんにご相談したら、「こういうキーワードがいいのではないか」となったのです。モンゴルの方にも気に入っていただいて、今はモンゴルの全国の病院で貼ってもらっています。
米澤 私もモンゴルでこのポスターを見ました。あちこちにペタペタ貼ってありました。
江口 病院にありましたね。日本の僕らが作ったポスターがモンゴルの田舎の病院に貼っているのは、結構感動しましたね。

(5) 治療薬事情

江口 それで、モンゴルはみんな院外処方ですので、調剤薬局に行きまして、肝臓病のお薬についてのお話を聞きしました。すると、ハーボニーのジェネリックが入っていました。



図20

(図20)
米澤 モンゴルはジェネリックの体制になっているのでですね。
江口 インドで作られたものが入っています。成分は全くハーボニーと一緒にです。オーソライズド・ジェネリックといいますが、原末はギリアドサイエンシズ社から提供されていると聞いておりますが、28日(約1カ月分)入って1万円です。モンゴ

ルの月収が平均7万円ぐらいですから、高くはありますが、保険適用になっていきますから買えます。

米澤 では、C型肝炎の治療をされている方はたくさんいらっしゃるということですね。

江川 国公立の病院だと、基本的に無料でお薬が飲めます。

ところが、別のモンゴルの医療に詳しい方からお聞きしたのですが、モンゴルは全部予算制度らしく、「うちの病院ではC型肝炎がおそらく100人来るだろうから、100人分の予算をくれ」と年度初めに国に要求するらしいのです。ですから101人目が来たら、「もう薬はないよ」ということで、診てもらえない。糖尿病人1,000人分、風邪が1万人分とか予算を設定して、その分を使ったら、「うちには、その薬はもうないよ」となって、ほかの病院を探さないといけないようなのです。県民は自分の県の病院でしか受診できないので、なかなか医療にもアクセス

できない。制度上の問題なのですが、こういうこともありま

す。

5. 肝炎医療コーディネーター養成(実行期②)

(1)保健省訪問

江川 モンゴルの保健省が肝炎対策をするのですが、中でも健康対策は、お薬に関して治療を推進するところと、保険診療を管理するところは全く別のセ

クションで、建物も別だそうですね。さらに、大統領が替わると官僚の皆さんも全部替わってしまうので、次に行ったときにどうなるかがわからない。そういう国です。

米澤 それで制度が変わってしまふことがあるんですね。

江川 はい。こちらは米澤さんも行っていただきましたね。

(図21)

米澤 モンゴルの保健省ですね。

江川 小さな3階建ての建物で、WHOもこの中にオフィスを構えています。

保健省に入りますと、真ん中の女性がモンゴルの健康局の局長です。それからアマルジャール先生という保健省の女医さんと、ムンクジャガール先生もいます。日本のリーフレットを見せながら、肝炎対策基本指針をご説明して、「これに則って、みんなが同じ方向を向いて対策

をしているんですよ」とお話をしました。(図22)

特に彼らに関心を持ったのは人材育成で、日本では肝炎医療コーディネーターを養成していることです。保健師などの医療従事者や当該医師が連携して、皆さんが進むべき方向に軽く背中を押す。サポートする。支える。これが日本では非常に有効ですとお話をしたところ、アマルジャール保健局長がものす

モンゴル国 保健省



図21



図22

ごく興奮しまして、「モンゴルでも肝炎医療コーディネーターを養成するのはどうだろうか」と言われました。

30分ほど面会をして、喧々諤々お話をして、非常に感動した言葉があります。このアマルジャーガル保健局長が「私たちは、数百年前に神風でモンゴル軍を失った。ところが今回は日本から神が来た」と言ってくださったのです。これは、やるし
かありません。「神が来た」と言われたのは初めてで、しかもモンゴルの要人からそう言われて、非常に興奮して鳥肌が立つたことを覚えております。

そして、日本に帰りました。米澤 はい。ここからスタートですね。

(2) 佐賀県での肝炎医療

コーディネーター養成講座

江口 モンゴルの保健大臣から、うちの学長あてに「江口有一郎を寄越せ」というサイン入りの手紙が来まして、学長室に

呼ばれました。今、国立大学は国際貢献をするという役割もありますので、学長からも背中を押されて、モンゴルでの肝炎対策を本格的にやることになりました。

こちらをちよつとご紹介していただけますか。

米澤 はい。つい半年ほど前、2018年12月に佐賀大で行われたコーディネーター養成研修です。このときは300人ぐらいでしょうか。ものすごい数でした。

江口 はい。会場からあふれていました。

米澤 そうでしたね。このときに私も「肝炎患者はこんなことを思っています」とか、「こんな状態です」と少しお話をさせていただいています。

江川 もう4年目になりましたよ。肝炎医療コーディネーターの養成研修会で、米澤さんは必ず30分の講義をしていただいています。中には、聴きながら涙ぐむ医療従事者の方もいら

っしゃいます。心を打たれて、モチベーションも上がっています。

米澤さんにも1日受講していただきまして、佐賀の肝炎医療コーディネーターになっていただいています。

米澤 佐賀の、ですよ。

江口 全国共通ではないのですが、ぜひ使っていただきたいと思えます。

米澤 残念ながら東京都では使えないのです。

江口 それで、この佐賀県の肝炎医療コーディネーター養成講座を、モンゴル代表でブルガンさんが受けてくださいました。試験も見事に満点です。佐賀県の池上 愛子さんが対策室長、今は総務省にお戻りになりましたが、この方から修了証をもらっているところです(図23)。モンゴル人が佐賀県で肝炎医療コーディネーター養成講座を受講したというのは、県も非常に貴重なことだと思います。「モンゴルと協力していい」と言ってい



図23

いただきました。

(3) 米澤さんを連れて

モンゴルへ

江口 こうしてモンゴルで肝炎医療コーディネーターを養成しようという試みが始まりました。第一回目の養成のため2018年の12月に行きました。このとき、米澤さんにもお声掛けをしてお連れしました。

私はその前日、沖縄県名護市において、名護市の病院で頑張っ

ていらっしやる肝炎医療コーディネーターさんのヒアリングに行っていました。その気温は25度ぐらいでした。名護から最終便で関空に行つて、関空からモンゴルに行ったのですが、着いたらマイナス25度でした。12時間ぐらいでプラスマイナス50度の差で、体調が悪くなりそうな感じでした。

米澤さんは、先に行かれていたのですね。

米澤 はい。岩根先生と私は先に参りました。

江口 米澤さんがいらしたときには、マイナス35度ぐらいまで下がったということでしたね。米澤 そうですね。40度ぐらいまで下がっています。

江口 それで、保健省に出向きまして、このときには米澤さんにも入っていただいて喧々諤々の議論をしたあと、皆さんで写真を撮りました(図24)。モンゴルの局長やアマルジャーガル局長、ほほ女医さんです。モンゴルでは女医さんが7割で男性

が3割です。男性は外科医で、あとは全部女医さんがやっています。米澤 そうですね。女性の先生が本当に多くてびっくりしました。

た。米澤 着物を着ました。本当に喜ばれましたけれども移動が大変でした。余談なのですが、着物を着られる方はわかると思うのですが、袖口や足元とか、いろいろなところから風が入ってきますよね。ちよつとの移動でも足首が霜焼けのように真っ赤になりました。お待たせしていたものですから、車から下りて次の会場まで走っていったのです。あとで部屋に帰ったらそんな状態になっていて、マイナス40度というのは、やはりすごいんだなと実感しました。

江口 着物は、冬のモンゴルには向かないですね。米澤 はい。でも、このあとにもまた別の会場に伺いましたが、特に女性の方が「着物は本当にきれい」と言ってくださつて、皆さんと写真を撮つたという楽しい思い出です。

江口 米澤さんの足首から足袋のところまでが赤く凍傷にな



図25
つてしまつて、危険な状況でした。

それで向かった先がウランバートルのロータリークラブで、「肝炎プロジェクトについて話してくれ」ということで、モンゴルのいわゆるロータリークラブに招待されました。

米澤 先生、これは、何をやっていらっしやるのですか。

図24



江口 研究費でポータブルエコーを買いましたので、モンゴルのロータリアンの方に説明をして、エコーを実際に当てているところです。(画像略)

こちら、ご紹介いただいたいいですか。(画像略)

米澤 これはモンゴルの民族衣装です。実は先生は今日、モンゴルの民族衣装を着てご登壇される予定だったのですが、残念ながら。

江口 買いそびれてしまいました。

米澤 なので、ちょっとだけご紹介させていただきます。すごくきれいです。

(4) モンゴル初の肝炎医療

コーディネーター

養成研修会

江口 トゥブ県で、モンゴル初、第1回の肝炎医療コーディネーターの養成研修会がありました。「トゥブ」とはモンゴル語で「真ん中」ということです。

そのときに、移動をされてい

るところです。

米澤 はい。これは車から下りて会場まで向かうときに写真を撮っていたものです(図26)。ものすごく寒いです。ただ、雪は積もらないんですね。

江口 寒すぎて雪が積もらないんです。周りは全部ゴビ砂漠で、雪雲はありませんので雪は降りませんが、道路もカチンカチンに凍っています。牛が町中を歩いています。

こちらをご紹介いただきましたよう。



図26

米澤 肝炎医療コーディネーター養成研修を行う会場に掲げられた旗です(図27)。スタッフの方たちが急遽作られて「第1回肝炎医療コーディネーター養成研修会 トゥブ県2018」と書いてある。肝ちゃんも全く同じような感じですね。

江口 同じものですね。ロータリークラブやモンゴル保健省が後援しています。モンゴル国営放送も取材に来られたのですね。

米澤 そうなんです。国営放送で取材がありました。初めて日本の先生方と患者とでこういったことをやるということ、意気込みや、日本の患者の状況はどうかと聞かれました。その日の夜の国営放送で報道されたと同じでした。

江口 米澤さんが行ってくださったことが非常にありがたかったのは、モンゴルの保健省のアメリカン・ジャール保健局長が、米澤さんのことをものすごく気に入って、「とにかくモンゴル国

の患者会とお話をしてほしい」ということで、それも急遽セッティングされたんですね。

米澤 そうです。この次の日に急遽セッティングされて、モンゴルの中の一歩大きな患者団体の方が保健省に来て、少し意見交換を行いました。

江口 彼らはどういうことをおっしゃっていましたか。

米澤 メインの主張は、冒頭で先生がおっしゃったように、「誰もが等しく治療ができるよ



図27



図28

うになつたらいい」ということでした。あとは、「お薬がなかなか手に入らないので、簡単にしゃっていました。
江口 お薬は病院の予算次第でなくなってしまうわけですから、そこには問題があるのかなと思いました。
こちらが第1回の養成研修会の様子です。(図28)
米澤 ものすごい数の方で、医



図29

療関係者ですけれども、見ておわかりのように女性の方ばかりです。
江口 ドクターも保健師さんもいらっしやるということですね。
これも米澤さんがお撮りになったのですよね。
米澤 はい。これは私が撮った写真で、岩根先生が講演なさっているところです。(図29)
江口 岩根が日本語で話して、



図30

ブルガンさんがモンゴル語に翻訳しました。
米澤 肝炎医療コーディネーター養成講座に参加された方に認定証をお渡しするというところで、江口先生のサイン入りで、モンゴルの県知事の落款が押してあります。これを最後に一人一人に手渡しをしました。
江口 はい。そういうことで、2018年12月6日に、モンゴル国初めての肝炎医療コーディネーターが160名養成されました(図30)。モンゴルの肝炎医療コーディネーターはこういう写真中央のバッジをつけられているというのですが、これも見事に佐賀県のものを使っておりまして、写真左の佐賀県のバッジをブルガンさんが持って帰りまして、佐賀県の国土がちょうどモンゴルと似ているので、うまいぐあいに作ったそうです。
米澤 本当にそっくり。(笑い)日本のよりも、ちょっと大きいのですよね。

**6. フィブロスキャンを持って
村を回る**
③(実行期) ↓ 維持期

江口 実行期になりますと、もうやるしかありません。私の母方は鍋島藩の御典医を長くしておりましたから、肥前の侍としては、もう徹底的にやるしかないということ、今はモンゴルの肝炎対策にどっぷり浸かって、次は今年の3月に行つてま

いりました。

米澤 これは新しい情報ですね。

江口 はい。このときは先ほどご紹介したコピーライターの松村さんにも一緒に行っていたかったです。これはモンゴルの道の駅です。一応記念撮影をしましたが、何も売っていない。(図31)

米澤 これが駅。気温は何度ぐらいですか？

江口 マイナス6度ぐらいです。抜けるように空が青いです。非常にきれいなところですね。

米澤 本当ですね。12月と空の色が全然違いますね。

江口 3月にやったことを紹介しますと、「SonoSite (ソノサイト)」という小さなポータブルエコーとファイブロスキャンミニを研究費でモンゴル用に買いました。一番小さいのが出たということ、この2つのポータブルの機械を準備して、モンゴル国でも患者さんにファイブロスキャンをやっつていこうということ

とです。

米澤 先生はいろいろな病院を回られたのですか？

江口 県立病院と、村の病院を1つ回りまして、合計80人ぐらいの方にエコーとファイブロスキャンをやるんですね。2日間で80人というのはなかなか大変で、エコーのゼリーで手がふやけてしまいます。

この座っている白衣の方は村病院の女医さんで、最新のエコー画像の見方なんて知らないの、**「ふむふむ」**と聞いている。

この後方の白衣の方はちょっと肥満の先生ですが、モンゴルの国立大学の肝臓病専門のチーフです(図32)。

米澤 皆さん、興味津々ですね。

江口 非常に珍しがられました。

こちらはモンゴルの遊牧民のおじいちゃん、B型肝炎の方です(図33)。朝8時から夜10時まで、牛と一緒に1日40キロ歩くそうです。ですから非常にやせておられます、B型肝炎なのですが、ファイブロスキャンの値は3.0。非常に健康なキャリアの方であるということで、撮影させていただきました。

今日は、実際の機械が米澤さんの後ろにあります。

米澤 そうなんです。今日は実物を持ってきていただいております。

江口 はい。そこでちょっとご紹介したいと思います。

米澤 どなたか実験台になっていただきたいと思えます。今、



図32

手が上がりました。

江口 「ファイブロスキャンミニ」というのはスーツケースもあります。「ファイブロスキャン」と書いてあるのですが、空港に行つて、これを開けないで保安検査場を通ると必ず別室に呼ばれます。なぜかという、X線で見ると手榴弾と全く同じらしいんです。2回ほど捕まりまして「これは何だ」「ファイブロスキャンだ」「ファイブロスキャン



2019年3月訪問

図31



図33

とは何だ。爆弾に似ている」ということで、今は最初から運搬ケースから取り出して「これは医療機器だ」と見せれば全く大丈夫になりました。

これが村の病院です。肝炎医療コーディネーターが、肝炎陽性の方を全部集めてきてくださいました。(図34)

米澤 これは、私がしゃべった肝炎医療コーディネーター養成のときに来ていただいた方ですか？

江口 そうです。皆さん受けら

れていてバッジをつけています。写真でもバッジをつけていらっしゃる方はいますね。ほとんどが肝炎医療コーディネーターになって、村の陽性者を30人全部連れてきてくれました。トウブ県の総合病院でも50人フィブロスキヤンをやりました。ロータリークラブの方々にも本当にお世話になっております。

陽性者の方にフィブロスキヤンをする、肝臓の硬さがわか

ります。硬さがある方を見つけて、「とにかく早くウランバ

ートルに行きましょう」と促せるように層別化するために、

フィブロスキヤンをしようという提案しました。向こうも「やろう！」

ということ、フィブロスキヤンとエコーとで検査をしていくことになりました。地元の先

生方にもエコーとフィブロス

キャンのテクニクを学んでいただいで、できたらフィブロスキヤンをモンゴルでも購入していただけたらなと思いま

す。患者さんの危ない順番がわ



図34

かる、非常にいいツールかと思

います。

米澤 はい。では準備が整ったようです。立候補していただいた、上大田誠にさんお願いしま

す。(フィブロスキヤンで計測)

米澤 皆さん、見えますか。フィブロスキヤンをやったことのある人はいますかーまだまだ少ないですね。すべての病院に設置されている状況でもありませんので。

置かれています。

これはポータブルになります、病院に設置されているものと基本は同じです。私たちの電話相談でも、「フィブロスキヤンは、どこでやっていますか」という質問はものすごく多いです。定価で60万円ということです。5未満だと標準ということですね。

江口 エコーで診たあとは、僕らはモンゴルでは医療行為ができませんから、同行しているモンゴルの肝臓専門医にウラン

バートルの肝臓専門医宛に紹介状を書いてもらって「専門病院に行きなさい」と勧めることになります。

7. モンゴル保健省の素早い取り組み

江口 今年の5月には、モンゴルの消化器病学会で話をしてくれと招聘を受けまして、講演に行っていました。ユーチューブにも上がっています。まだ29回しか見られていないのですが。

このときは、厚生労働省の元肝炎対策推進室長の小野 俊樹さんにも来ていただきました。今、小野さんは日本社会事業大学の教授に出向されて、大学の先生であり、私の研究班にも入っていたいでいます。あとは、元厚生労働省の武内和久さんという方が私の親友で、誘って一緒に行っていました。彼はイギリスの日本大使館でも4年間一等書記官をしておりました。英語はペラペラですし、かかりつけ医制度という概念を日本に持ってきた男で、地域医療政策に非常に詳しく、彼も一緒に誘って行きました。

これが、米澤さんも行かれたと思いますが、トウブ県の病院の感染症棟です(図35)。B型肝炎、C型肝炎は、一般病床ではなくて感染症病床に入院しなければいけないのがモンゴルの状況です。ムンクジャガール先生と、小野元室長と、うちの佐賀大学附属病院消化器内科の磯田広史という助教、彼も厚生



図35

省におりました。あとは武内和久さんです。向こうの医療システムは電子カルテです。肝炎プロジェクトのためにつくったもので、全部の病院とオンラインでつながっております。国民総背番号制ですので、番号を入れたら、そ

の人が検査を受けているか、どこで治療を受けて、誰が処方しているかがリアルタイムにわかる仕組みになっています。リアルタイムにどんな数か動いて「あ、今、1人治療を受けましたね」とわかる仕組みです。

米澤 すごいですね。

江口 はい。「受検、受診、受療を1つずつ精査して、スムーズに進んでいく仕組みをモニタリングしないと、肝炎対策はうまくいきませんよ」と助言をしたときから、保健省ではその仕組みを考えて、あつという間に作ってしまいました。元社会主義国なので、国が決めたらあつという間に動くので

す。肝炎の受検・受診・受療マネジメントシステムでは、もう日本が負けてしまった状況で、非常に学びは多いです。国民トータルの中でウイルスの陽性者がどのくらいかを見ることができる仕組みです。

行った病院でも肝炎啓発のポスターが貼ってありました(図36)。左から小野先生と武内和久さんとムンクジャガール先生と院長先生。院長先生は島根大学に留学歴があつて、片言の日本語がしゃべれました。

8. ぬかるみを越えて 突撃ヒアリング

江口 今度は小野先生と一緒にヒアリングに行きました。

米澤 これはどちらですか？

江口 これはかなりインスタ映えしている写真だと思つて気に入っているのですけれども、どこに行くかというところ、こちらです。こちらのゲルに聞きに行こうと。(図37)

米澤 ああー、小さく見えますね。

江口 ムンクジャガール先生に、「人が住んでいるんじゃないか。あそこに行こう」と行ったのが、こちらです。

(5分ほどの動画)

江口 これは日産のアベニールで、川を渡っているとこ



図 36

す。時期的に凍土が溶け始めた状態だったのですが、でこぼこです。泥にはまっちゃって、2時間ぐらい車を押ししたりしても、どうにもならないんですよ。寒くて寒くてたまらない。そうしましたら、ランドクルーザーに乗った遊牧民が通り掛かりまして、引っ張ってくれて何とか助けてもらいました。車を押しして泥だらけです。

車が動くようになると、ムンクジャガール先生は僕らを置いて川を渡ってしまいました。仕方がないので、助けてくれた遊牧民の車に無理やり同乗させてもらって、川を渡って追いついたという、なかなか冒険的な体験をしました。

9. 今後の予定

江口 そういうわけで、一昨日、メールで次の指令が来ました。「来年以降の次のプロジェクトを立ち上げる。来年3月に

始まるプロジェクトについて、内容をチェックをして送り返してくれ」ということで、送り返しました。

米澤 「日本の肝炎対策は、モンゴルで役に立った? 今後の予定は?」ということですが。

江口 はい。モンゴルでも非常



図 37

に喜んでくださって、日本の肝炎対策基本法が大変よくできているということ、日本は国が基本指針で牽引していること、それから多職種で疾患を扱って、患者会も一緒に入って二人三脚であることに関して、すごく参考になると喜ばれました。

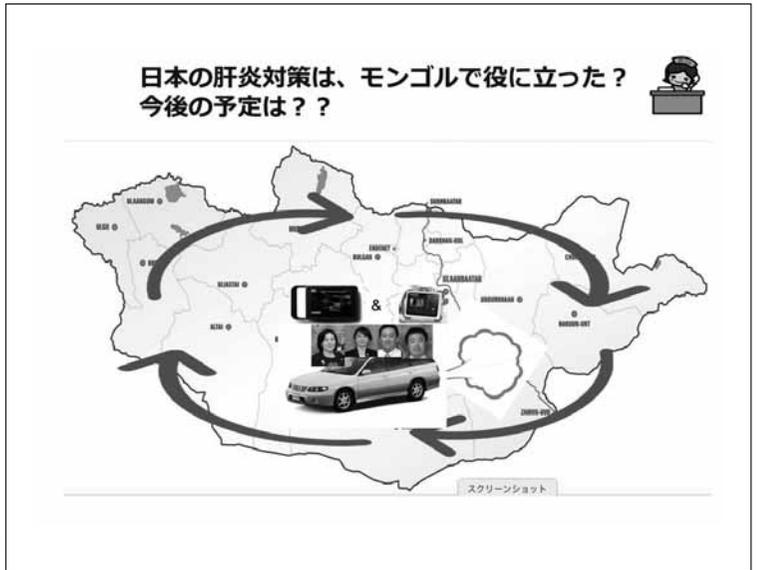


図38

す。もちろんこちらでも予算を募集しておりますので、もし基金を何か作っていただければ、モンゴルで活用したいと思えます。できる限り私が行って、モンゴル中でファイブプロスクランをやるうと準備しています。

来年3月に行くのは、カザフスタンとの国境にある西側のホブド県です。週に1回しか飛行機が飛ばなくて、鉄道もありません。モンゴルにはロシアに向かう鉄道しかなくて、車で1週間かかります。しょうがないので、ウランバートルで自家用ジェットを借りて、こちらまで一緒にチームで移動しようと言われています。ですから途中で帰れません。ホテルもないので、病院で寝泊まりさせてもらうという、これまたかなりアドベンチャーなことになります。

私と、あと1人行けるのですが、佐賀大学でも診療が

モンゴルでは、ヘリコプクター・ピロリ菌による胃がんもとても多いのです。ですから、2つの疾患について日本の疾病対策から学びたいというところで、非常に感謝されております。

今後の予定は、モンゴルの21県を全部回ってファイブプロスクランをしようというプロジェクトです(図38)。モンゴルのロータリークラブが予算を取ろうとしています。

ありますので、私以外に行ける人間はいないかもしれません。「我こそは」という方がいらっしゃれば、同行いただければ、アドベンチャーな体験ができるのではないかと思います。

米澤 (笑い) 絶賛募集中ですね。

佐賀県の肝がん粗死亡率は20年目でようやくワースト1位を返納？(暫定)

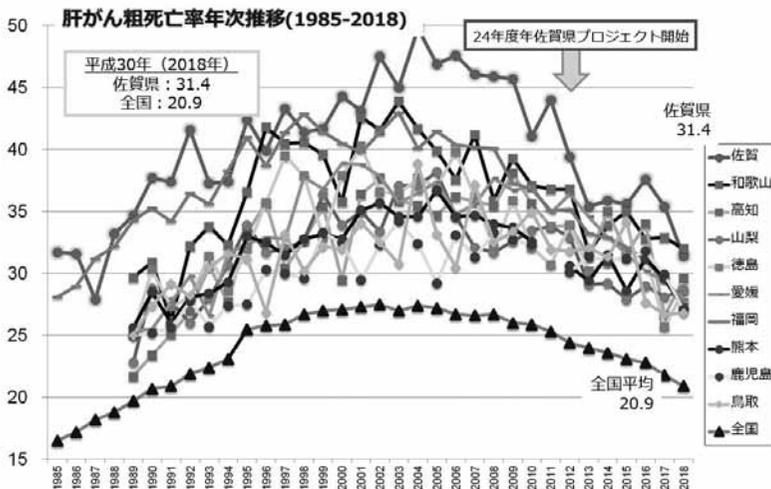


図39

10. 佐賀の肝炎対策にも 成果が

江口 それから、これは暫定値
 でまだ高らかに申し上げられ
 ないのですが、私が肝疾患セン
 ターに入ってから肝がん死亡率
 は何とかが下がってきました。最
 新のデータで、総死亡率はワー
 スト1をようやく返納できたの
 ではないか。2位なので最大瞬
 間風速かもしれません、1位
 は返納できました。20年かかり
 ました。(図39)

それから9月にはパラオ
 の大統領にも呼ばれました、
 NASHを探してくれという
 ことで、「2万人の国民全員に
 フィブロスキャンをやってく
 れ」と、パラオの保健省からオ
 ファーが来ておりました、どう
 しようかなと思っています。

米澤 先生、パラオは、C型、
 B型どちらですか？

江口 どちらもほとんどいま
 せん。ただし国民の70%が肥
 満なので、NASHが非常に多

い。そこで、フィブロスキャン
 でNASHを層別化をしたら
 どうかというお話をパラオの保
 健省からいただいたいています。

米澤 はい、今後も大活躍の江
 口先生のお話でした。どうもあ
 りがとうございました。

江口 ありがとうございます
 (拍手)

11. 質疑応答

米澤 少し時間がありますの
 で、今のお話でご質問など、先生
 に聞きたいことはありますか。

質問1ーa キャッチコピーは
 誰が考えたのですか？

質問者1(男性) どうもありが
 とうございました。貴重な体験
 の話で、モンゴルの景色を初め
 て見まして、すごいところだな
 と思いました。

向こうでの啓発資料で、「放
 っておくのは自殺と同じだ」



肝臓検査.com

kanzo-kensa.com

ウイルス



アルコール



食べ過ぎ



運動不足





肝臓の検査方法について紹介するサイトを立ち上げました！

フィブロスキャン 検査について相談できる病院は、こちらからご確認ください。
 一部、未掲載の施設がありますので、ご了承ください。

🔍

肝臓検査.com

で検査！



QRコードを
読み込んで検索！

Integral 株式会社インテグラル

掛けていて、おばあちゃんとお嫁さんと赤ちゃんがいたのですが、お嫁さんもおばあちゃんも肝炎の検査を受けておられました。「なぜ受けたの？」と聞いたら、「町の保健師が勧めたから」と。米澤さんたちが養成してくれたトウブ県の肝炎医療コーディネーターが「検査を受けましょう」と勧めて、3月に検査を受けたということでした。肝炎医療コーディネーターを養成した結果、保健師さんたちが検査を受けさせる声掛けをしてくれましたということで、非常に感動しました。やはり、人の勧めというのは大事ですね。

質問1-c モンゴルの男女比や文化について

質問者1 モンゴルの人口は先ほど聞きましたけれども、男女はどのくらいの割合でしょうか。

江口 半分半分に なります。質問者1 医療関係に従事して

いる人の7割が女医さんというのは。

江口 男性は、遊牧民で牛を追いかけている人が多かったです。工場で働いたりしています。首都のウランバートルが人口150万人ぐらいで、町の規模は福岡市ぐらいです。広さ的には札幌のイメージでしょうか。広々とした感じですよ。ウランバートル以外のあとの150万人は遊牧民です。モンゴルでは、男性は牛を追いかけていて、保健・医療は女性の仕事だという考えがあつて、女性に対する学校教育のレベルが非常に高いです。男性はどちらかというと、馬に乗ったりお相撲したりと体を動かすほうにシフトして、勉強は女性がするものという感じですよ。

モンゴル国立大学の医学部にも行きましたが、女医さんばかりでした。ほぼ全員がロシア語と英語を話せて、5か国語ぐらいしゃべれる大卒の方も多いということ、非常に勉強熱心で優秀です。

私たちができる全てを、 待っている人のために

アッヴィは、米国に本社を置く、
グローバルな研究開発型の
バイオ医薬品企業です。

アッヴィ合同会社

〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目1番21号
msb Tamachi 田町ステーションタワーS
<https://www.abbvie.co.jp/>

abbvie

People. Passion.
Possibilities.®



私たちは小さい頃に蒙古斑を持っていきますよね。今はもう消えています。ブルースタンプを持っている」と言うと、「同じ民族だね」と彼らは非常に喜んでくれます。

質問者1 モンゴル相撲の話は聞きましたか。

江口 お相撲と競馬は、国をあげてやるみたいです。

質問者1 日本でも横綱はほとんどモンゴルの方ですね。

江口 ああいう方はいっぱいまして、そういう方が飛行機で隣に乗ると、なかなかきつところはある(笑い)。モンゴルは相撲を国技としてやっているそうです。

質問者1 モンゴルばかり行かないで、佐賀でもまた頑張ってください。すみません、勝手なことを言いました。ありがとうございます。

質問2 ハーボニーのジェネリック

質問者2(女性) 日本での肝炎対策が世界中に広がって、世界の患者さんを減らすためにすごく大きな役割を果たしておられると聞いて、とても感激しました。

先ほど、「モンゴルでは薬はジェネリックで、1カ月で1万円」というお話がありました。日本でジェネリックを使うということは、どうなのでしょう。今使われているのでしょうか。いろいろ新しい薬が出るたびに薬価が大きな問題になっています。今後ジェネリックにすることによって、予算をぐんと少なくして、ほかのところへ回せるということはあるのでしょうか。

江口 仕組みに関しては、新薬は5年経ちましたらライセンスが切れますから、どのお薬でもジェネリックが使えるようになるのが日本の現状です。ハーボニーなりも、5年経てばおそらくジェネリックが出てくるのではないかと思います。エンテカビルは、バラクルードからジェ



肝炎・肝炎治療を知るサイト

naruhodo 肝炎

www.naruhodo-kanen.jp



基本的な情報を
わかりやすく

正しく知ることによって不安を軽減。
図を用いてわかりやすく説明しています。

治療の今を知る

治療は日々進歩しています。
適切な治療を受けることの大切さを
知しましょう。

ギリアド・サイエンシス株式会社
www.gilead.co.jp/

どんな病気なの?

どんな検査を
するの?

どんな治療が
あるの?

医療費助成に
ついて知りたい!

お持ちのスマートフォンから簡単アクセス!

なるほど! 肝炎
www.naruhodo-kanen.jp



ネリツクのエンテカビル錠に替わりましたので、おそらくC型肝炎のお薬も、ある程度経てば、ジェネリックに替わっていくのではないかと思います。

質問者2 先ほどのモンゴルで売っていたジェネリックは、日本でも既にありますか。

江口 日本にはまだ入ってきていないです。インドやエジプトとかもそうですが、ギリアドサイエンシズ社の方針で、国家予算が少ないとか、国民の総収入によって経済的に厳しいところは、ギリアド社がライセンスを認めて、オソライズド・ジェネリックという安いお薬を売っています。先進国は先発品を使って、後進国は最初からジェネリックというギリアド社の方針だそうなんです。最初から先発品がないのです。

質問者2 数年経てば、日本にも入りますか。

江口 5年経てば、すべてのお薬でジェネリックができますので、日本でも5年経てば販売で

きるようになるのではないかと思います。

米澤 日本はジェネリックの対象にはならなかったということですね。

質問者3 **モンゴルでの肝がん治療**

質問者3 (男性) モンゴルではこれから陽性者からがんがどんどん見つかる可能性があると思います。その場合、ラジオ波と手術とではどんな割合ででしょうか。

江口 モンゴルの場合、現在はスクリーニングの制度がありませんので、早期で見つかる方がほとんどいらっしやらないです。がんの治療は、ウランバートルにあるモンゴルの国立がんセンターでしかできないので、そこに殺到するだろうと思えます。15年ぐらい前のエコーの機械しかない状態で、日本からの提供によって新しいエコーが何台か入ってきていますが、スキルが全くないのです。ですか

都立駒込病院 肝臓内科 治験実施のお知らせ

C型またはB型肝炎ウイルスに起因する肝硬変の患者さんを 対象とした医師主導治験を実施しています

今回の治験は、PRI-724という治験薬を投与したときに患者さんにとって好ましくないことが起こらないか確認する安全性と、患者さんの肝臓の線維化が改善するかどうかをみる有効性を検討するものです。



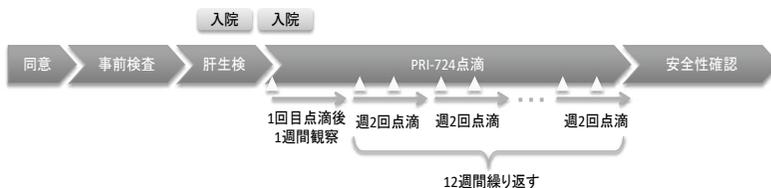
都立駒込病院 肝臓内科部長
木村 公則

参加いただける条件(※その他条件がございます。)

・Child-Pugh ScoreがAまたはBの状態にある患者さん。20歳以上75歳未満の患者さん。

PRI-724の投与とスケジュール

- ・入院して事前検査(血液検査、肝生検、腹部CTなど)を行い、治験参加の条件を満たしているか確認します。
- ・入院してPRI-724を4時間かけて点滴します。投与後、約1週間は安全性確認のための観察を行います。
- ・次の投与からは外来にて週2回、4時間の点滴を行い、これを12週間繰り返します。
- ・PRI-724の全ての投与が終了した後も、安全性を確認するための検査を行います。



東京都立駒込病院
〒113-8677 東京都文京区本駒込3-18-22

お問い合わせ <9:00~17:00>
臨床研究支援室 03-3823-2101
詳しくは当院のホームページをご覧ください。

ら、基本的にはCTスキャンで見つけたときには、もう大きながんになっています。

TACEというカテーテルの治療、肝動脈塞栓術がメインで行われているみたいです。移植もできることはできますが、なかなか移植まで回る患者さんまではいらっしゃらない。

早期スクリーニングの仕組みがまだ向こうはありませんので、今からファイブプロスキャンでどんどんリスクのある方を見つけて、進化した陽性者は半年ごととにちゃんと病院に行きましよう」という流れになれば、早期がんが見つかるようになるかなと思います。今は、破裂寸前の肝がんがようやく見つかる現状だそうです。

米澤 かなり前の日本もそんな状態のときがあったかと思えます。それでは時間になりました。これで終わります。

野田 江口先生、どうもありがとうございました。米澤さん、お世話様でした。1時間のお話

も、先生の歯切れのよい口調とスライドで、本当にわかりやすく説明していただきました。今日は「世界・日本肝炎デー」ということで、「世界」なんて大げさではないか」というお話も今まで耳にしましたが、今日は本当に「世界・日本肝炎デー」にふさわしいお話を伺えました。先生が、日本だけではなくて世界に社会貢献されていることに感銘を受けました。ありがとうございました。(拍手)



自己免疫性肝炎(AIH)の患者さまへ

 自己免疫性肝炎(AIH)の患者さまを対象に新しいお薬(注射薬)の治験*を行っています。

 治験とは



治験*とは、開発中のお薬を患者さまに使用していただき、その有効性(効果など)および安全性(副作用など)を確認し、厚生労働省から医薬品としての承認を得るために行う臨床試験のことです。

 この治験に参加可能な方 以下の条件を満たす方が対象となります。

- 自己免疫性肝炎(AIH)と診断された18歳以上75歳以下の方
- 標準的な治療方法(ステロイドの内服)で効果が十分でない、あるいは副作用などで使用を中止した方
- 妊婦又は授乳婦(母乳での授乳)ではない方

この他にも治験に参加していただくための基準があります。患者さまによっては治験に参加いただけない場合もございますので、予めご了承ください。

詳しい内容については、下記にお問い合わせください

| 病院名・科名 | 窓口 | 電話 | 対応可能時間 |
|-------------|----------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 帝京大学医学部附属病院 | 内科 田中 篤(治験責任医師) | 03-3964-1211(代表) | 9:00~17:00 |
| 愛媛大学医学部附属病院 | 第三内科 阿部 雅則 | 089-960-5308 | いずれの場合も 月~金(祝日, 12/29~1/3 除く) |
| ・医師用 窓口 | 臨床研究支援センター | 089-960-5914 | 8:30~17:00 |
| ・患者さん用 窓口 | | | |
| 香川県立中央病院 | 自己免疫性肝炎 治験担当窓口 | 087-811-3333(代表)から 内線 5845 | 月~金(祝日, 12/29~1/3 除く) 9:00~17:00 |
| 福岡大学病院 | 臨床研究支援センター 治験コーディネーター 山下奈美 | 090-6772-0850 | 10:00~14:00 |

バルティスファーマ株式会社 バルティスダイレクト 電話番号: 0120-003-293

ジゴメン メグデイカル シンヤク

帝京大学医学部付属病院 田中 篤

本号ではまずお詫びから。私は2016年以來この東京肝臓友の会の会報で、自己免疫性肝疾患についての記事を書かせていただいています。前号ではとうとう「穴」を空けてしまいました。大変申し訳ございませんでした。

さて、本号では原発性胆汁性胆管炎(PBC)について最近いただいたご質問を紹介します。

私たちは厚労省からの研究費で「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班」という組織をつくっており、研究班のホームページ(<http://www.hepatobiliary.jp/>)では一般の方からメールで質問を受け付けています(info@hepatobiliary.jp)。このところPBCについての治療についてのご質問をいただくことが結構ありますので、その一環をご紹介します(実際の質問を多少変更しています)。

(質問1) PBCと診断され、医師からはウルソという薬を飲むよう言われました。これは絶対飲まなければいけないのでしょうか？

(回答1) 肝機能検査値が上がっている場合にはやはりウルソを服用されることをお勧めします。肝機能検査値の中でもALPという項目が上昇するのがPBCの特徴ですが、ALPが基準値の上限を超えていた場合にはウルソデオキシコール酸(ウルソ®)を飲んでいただく方がよいです。ことに基準値上限の1.5倍を超えていた場合にはウルソを飲んでいただくことを強くお勧めします。逆に、最近ではALPが基準値範囲内であってもPBCと診断される場合がありますが、このような場合にはウルソは飲まず血液検査のみで様子を見ていただくかろうと思えます。

(質問2) PBCというのは難病だそうですが、やはりこの病気に詳

しい医師に診てもらった方がよいのでしょうか？

(回答2) この病気は原因がまだ分かっておらず、完治させることもできないので難病に指定されています。この病気に詳しい医師がどこにもいるわけでもないので、納得のいく説明が受けられないこともしばしばあります。しかし治療という面では、ウルソという薬がよく効くことが分かっており、日本中どの病院でもどの医師でも同じ治療をしていますし、医師によって効果が違うということもありません。ですので、はじめからわざわざ詳しい医師に診てもらふ必要はなからうと思えます。が、ウルソの効果が不十分とか、典型的なPBCではないとか、若干進行しているとかいった場合には確かにPBCに詳しい医師に診てもらった方がよいかもしれません。

(質問3) 鉄分は肝臓病に悪いと聞きました。鉄分の多い食事は避けた方がよいのでしょうか？貧血があつて鉄剤を飲むよう勧められました。それも止めるべきでしょうか？

分の多い食材を避ける必要はないと考えています。私の知る限り、鉄の過剰がPBCの病態を悪化させるという報告はありません。貧血の場合には、むしろ貧血をそのままにしておく方が身体には良くないので、鉄剤を飲むよう勧められたのであればそのまま服用してください。

(質問4) PBCでは身体がかゆくなるという話を聞きました。私(PBCの患者さん)もしばしば身体がかゆくなり、掻くと赤く腫れるのですが、このかゆみはPBCのせいでしょうか？

(回答4) PBCのかゆみは皮膚になんら異常がないのが特徴です。かゆみがあり皮膚を欠いたのち、あるいは掻く前から、皮膚が赤く盛り上がりつつある場合は、PBCではなく何らかの原因で蕁麻疹が起こりそれによるかゆみの可能性がありますので、皮膚科の先生に診てもらってください。

最後に、以前この欄でも取り上げた原発性硬化性胆管炎(PSC)の治験が開始されています(<http://www2.med.tokyo-u.ac.jp/digestive/?p=257>)。興味のある方はご連絡ください。

がん研有明病院の

肝臓がん・胆道がん・ 膵臓がん治療 に向きあう食事

術前後の不安を
解消します！

公益財団法人がん研究会 有明病院
監修 ● 比企直樹 (消化器外科 胃外科部長 栄養管理部部長)
食事指導 ● 中濱孝志 (栄養管理部副部長 NS 専門療法士)
● 高木久美 (栄養管理部 管理栄養士)
医療解説 ● 井上陽介 (消化器外科 肝・胆・膵外科副医長)

肝臓がん

減塩を心がけ、
野菜たっぷりの食事を。



女子栄養大学出版部

手術直後は、固にやさしい食事を。

胆道がん



膵臓がん

症状に合わせた食事を。



書籍のご紹介

◆術前後の不安を解消するために、入院前から退院直後、社会復帰後とそれぞれの時期に応じた食事アドバイスと作りやすい献立と料理を紹介しています。

【肝臓がんの章】

- ・肝臓がんの種類と治療法・入院前の食事アドバイス
- ・退院直後の食事アドバイス・社会復帰後の食事アドバイス

公益財団法人がん研究会 有明病院

監修／比企 直樹 (消化器外科 胃外科部長 栄養管理部部長)

食事指導／中濱 孝志 (栄養管理部副部長 NS 専門療法士)

高木 久美 (栄養管理部 管理栄養士)

医療解説 井上 陽介 (消化器外科 肝・胆・膵外科副医長)

東京肝臓友の会で販売しております。

【書籍代】1728円 +【送料】200円

お電話・FAXにてお申込みください。

電話：03-5982-2150 FAX：03-5982-2151

(火・木・金曜日*祝日を除く、10時～16時)

書籍のご紹介

◆武蔵野赤十字病院院長の泉並木先生が
ご監修

B型C型肝炎だけでなくNASHの最新治療までをイラスト図解で大変わかりやすく解説しています。検査や栄養、生活にいたるまで多岐にわたる内容です。

第1章 脂肪肝・NASH

第2章 C型肝炎

第3章 B型肝炎

第4章 肝硬変・肝がん

第5章 肝臓をいたわる生活のポイント

東京肝臓友の会で販売しております。

【書籍代】1,404円 +【送料】200円

お電話・FAXにてお申込みください。

電話：03-5982-2150 FAX：03-5982-2151

(火・木・金曜日*祝日を除く、10時～16時)

スタッフおすすめの1冊

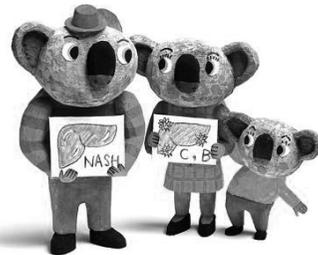
健康ライブラリー イラスト版

肝炎のすべてが わかる本

武蔵野赤十字病院院長
泉並木 監修

C型肝炎・B型肝炎・NASHの最新治療

ひと目で
わかる
イラスト図解



治療の最終目標は肝がんの防止!

進行をくいとめる最新の治療法と
治療効果を最大限に引き出す生活術!

講談社

